

美味しさをいつも貴方のもとへ Since 1886

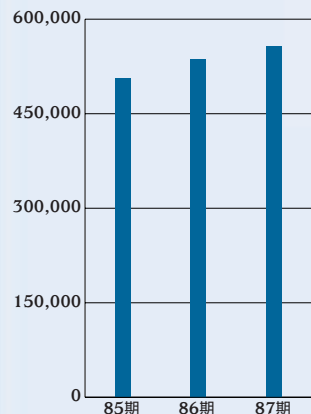
伊藤忠食品株式会社

証券コード：2692

# FINANCIAL HIGHLIGHT

連結決算ハイライト (単位：百万円、百万円未満切り捨て)

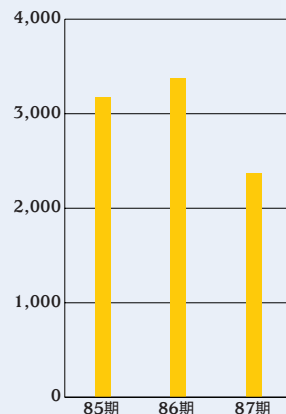
■ 売上高



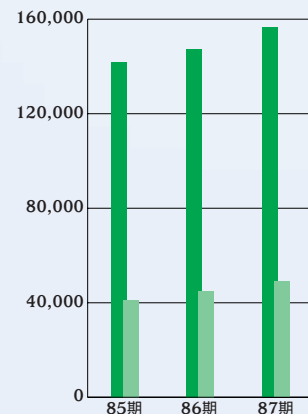
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 総資産 ■ 株主資本



	第85期 平成15年9月期	第86期 平成16年9月期	第87期 平成17年9月期	対前期増減率 (%)
売上高	505,631	536,172	557,843	4.0
経常利益	5,900	6,151	6,121	△ 0.5
当期純利益	3,173	3,372	2,369	△ 29.7
1株当たり当期純利益(円)	235.78	249.64	174.75	
1株当たり株主資本(円)	3,143.53	3,428.23	3,741.50	
総資産	141,943	147,407	156,196	
株主資本	41,066	44,794	48,850	
株主資本比率(%)	28.9	30.4	31.3	

# TOP MESSAGE

## トップメッセージ

### ● ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

伊藤忠食品は、平成18年2月11日に創業120周年を迎えます。これもひとえに株主の皆様からのご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。当社グループは、次の10年を見据え「NEXT 10・Innovative Solution Company」というテーマで、「中期経営計画」を策定し、食品中間流通企業として今後さらなる発展を遂げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当社第87期（平成16年10月1日から平成17年9月30日まで）の「事業報告書」をお届けいたしますので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

平成17年12月

代表取締役社長

濱口泰三



### ● 当期の取り組みと業績

当期のわが国経済は、企業収益の改善による設備投資の増加に加え、雇用環境の回復が個人消費に好影響をおよぼすなど、昨年から引き続いて緩やかな回復基調をたどりました。

また、原油価格の高騰が運輸など一部産業において収益圧迫の要因になることが懸念されましたが、この影響は限定的なものにとどまりました。

食品流通業界におきましては、台風・降雨・暖冬など天候異変による影響や、小売業のオーバーストア状態による競争激化が利益率の低下を招くなど厳しい状況で推移いたしました。また、固定資産の減損処理などにより財務体質を強化したことなどから、大手小売業を中心に業績は改善傾向が見受けられました。

このような環境下、当社グループは、業態別では地域量販店および業務用卸・外食産業との取引拡大を、商品分類別では酒類の利益率改善と食品の売上拡大を図り、さらに新規取引先の開拓にも注力いたしました。また、得意先からの一括物流受託を中心に中間流通機能を最大限に活用することで、小売業や外食産業との協業を積極的に推進してまいりました。

この結果、当期の売上高は5,578億43百万円となり、前期比較216億70百万円（4.0%）増加いたしました。これは、販売単価の下落による減少要因があったものの、主力取引先であるコンビニエンスストア、広域・地域量販店への売上が大幅に増加したこと、また業務用卸・外食産業との取引が引き続き好調に推移したことが主な要因であります。

経常利益は、売上拡大による粗利益増加があったものの、量販店対応の一括物流センター新設等による一時費用の発生、

また貸倒懸念債権の新規発生により引当金を追加計上したことなどにより61億21百万円となり、前期比較30百万円(0.5%)減少いたしました。

また、特別損益では、固定資産売却益等により99百万円を特別利益に、投資有価証券評価損、固定資産の減損損失等により21億41百万円を特別損失にそれぞれ計上し、法人税等差引き後の当期純利益は23億69百万円となり、前期比較10億2百万円(29.7%)減少いたしました。

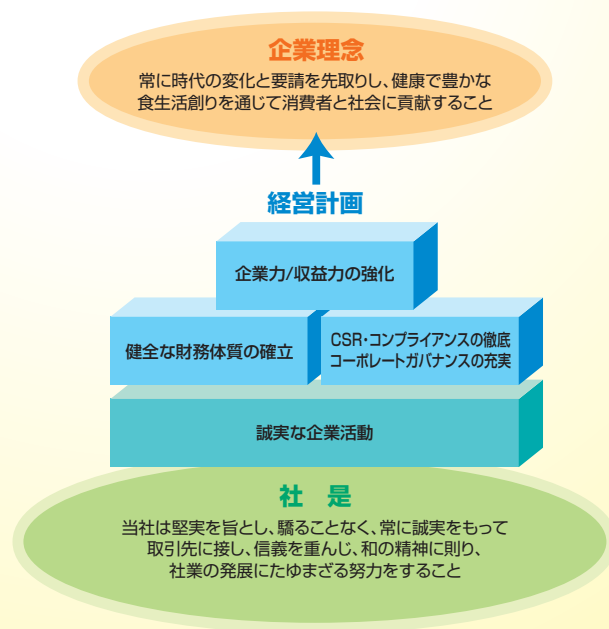
#### ● 次期の業績見通し

わが国の経済は、景気の回復が企業部門から家計部門にも広がるなど、消費の緩やかな増加等により民需を中心に底堅く推移するものと思われます。

食品流通業界においては、企業間格差から流通グループの勢力地図が大きく変化するなど、業界再編はさらに加速していくであろうと予想されます。

このような状況下、当社グループは卸機能の質的向上と収益の安定確保・拡大ができる経営体質の確立を目指し努力してまいり所存であります。また、第88期(平成18年9月期)は当社にとって創業120周年、社名が伊藤忠食品(株)になって10年、株式上場から5年という節目の年であり、これからもグッドカンパニーであり続ける重要な年と位置付けております。

次期の見通しにつきましては、売上高は3.3%増加の5,763億円を予定しており、利益面では経常利益65億円、当期純利益36億90百万円を見込んでおります。



#### 「中期経営計画」を策定

当社は、創業120周年、伊藤忠食品(株)への社名変更から10年、東証一部上場から5年という節目の年を迎えました。この長い歴史のなかで変化へ対応し環境に順応し、幾たびもの

変遷を経て、食品中間流通企業として今日の業容を築き上げてまいりました。第87期は、未処理であった損失を一掃し、今後の成長に向けた経営基盤の一層の強化を図りました。この節目の年に、次の5年、10年、120年の未来に向けた企業成長の第一歩として、10年を見据え「NEXT10・Innovative Solution Company」というテーマで、当社の「中期経営計画」を策定いたしました。

長年培われてまいりました当社の「社是」と「企業理念」を再認識するとともに、『顧客価値』・『株主価値』・『人材価値』を高め、当社のステークホルダーの皆様にご満足いただけるよう、経営陣と社員が一丸となって「中期経営計画」の達成を目指し邁進してまいります。

### 中期経営計画基本方針

顧客価値

株主価値

人材価値

### 経営計画基本方針

#### 企業力/収益力の強化

1. コア・コンピタンスの強化  
(中核事業の強化)
2. コア・コンピタンスの拡大  
(中核関連・周辺事業の拡大)

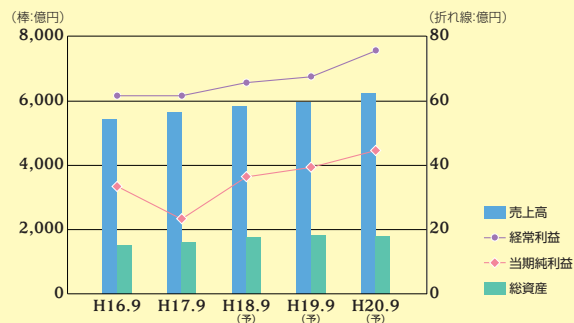
#### 健全な財務体質の確立

1. アセットマネジメントの推進
2. 株主利益重視の経営戦略・財務戦略

#### CSR・コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの充実

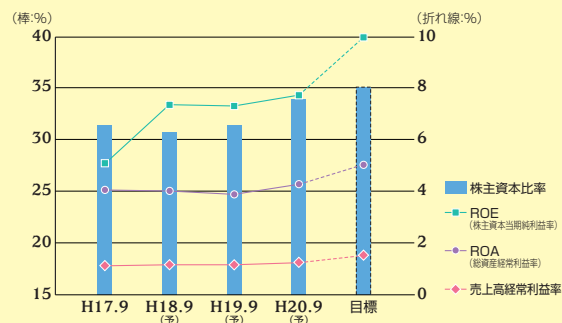
1. CSR・コンプライアンスの徹底
2. コーポレートガバナンスの充実

### 経営計画数値



### 経営指標目標

基本方針等を実施することにより、以下の経営指標を当社の目標といたします。「NEXT10」10年以内に、売上高経常利益率1.5%、ROA5%、ROE10%、株主資本比率35%という指標の達成を目標とし、『収益性』・『成長性』・『効率性』・『安全性』のバランスの良い企業を目指し経営を行ってまいります。



# CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

## 連結決算の概要

### ■ 連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	当期	前期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在
<b>● 資産の部</b>		
流動資産	103,485	98,351
固定資産	52,711	49,055
有形固定資産	22,618	21,702
無形固定資産	422	643
投資その他の資産	29,670	26,709
資産合計	156,196	147,407
<b>● 負債の部</b>		
流動負債	103,853	99,509
固定負債	3,418	2,940
負債合計	107,271	102,449
<b>● 少数株主持分</b>		
少数株主持分	74	163
<b>● 資本の部</b>		
資本金	4,923	4,923
資本剰余金	7,162	7,161
利益剰余金	32,587	30,649
その他有価証券評価差額金	4,181	2,064
自己株式	△ 3	△ 4
資本合計	48,850	44,794
負債、少数株主持分及び資本合計	156,196	147,407

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

### ■ 連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	当期	前期
	平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
売上高	557,843	536,172
売上原価	501,646	483,748
売上総利益	56,197	52,424
販売費及び一般管理費	50,852	46,983
営業利益	5,345	5,441
営業外収益	879	816
営業外費用	102	105
経常利益	6,121	6,151
特別利益	99	180
特別損失	2,141	347
税金等調整前当期純利益	4,079	5,984
法人税、住民税及び事業税	2,427	2,680
法人税等調整額	△ 713	△ 76
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 4	8
当期純利益	2,369	3,372

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

#### 売上高

販売単価の下落による減少要因があったものの、主力取引先であるコンビニエンスストア、広域・地域量販店への売上が大幅に増加し、また業務用卸・外食産業との取引が引き続き好調に推移したことにより前期比較4.0%の増加を達成いたしました。

#### 経常利益

一括物流センター新設等による一時費用の発生、また貸倒懸念債権の新規発生により引当金を追加計上したことなどにより前期比較0.5%の減少となりました。

#### 当期純利益

固定資産売却益等により99百万円を特別利益に、投資有価証券評価損、固定資産の減損損失等により21億41百万円を特別損失にそれぞれ計上し、法人税等差引き後の当期純利益は、前期比較29.7%の減少となりました。

## ■ 連結剰余金計算書 (単位：百万円)

科 目	当期	前期
	平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
<b>● 資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	7,161	7,119
資本剰余金増加高	1	41
連結子会社合併に伴う利益剰余金振替高	—	41
自己株式処分差益	1	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	7,162	7,161
<b>● 利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	30,649	27,680
利益剰余金増加高	2,369	3,372
当期純利益	2,369	3,372
利益剰余金減少高	431	403
配当金	312	260
役員賞与金	118	101
連結子会社合併に伴う資本剰余金振替高	—	41
利益剰余金期末残高	32,587	30,649

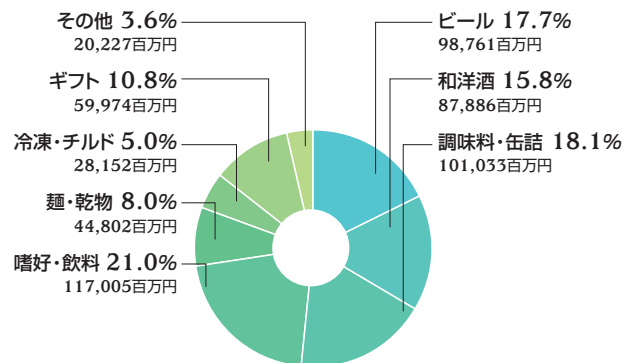
※百万円未満は切り捨てて表示しております。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

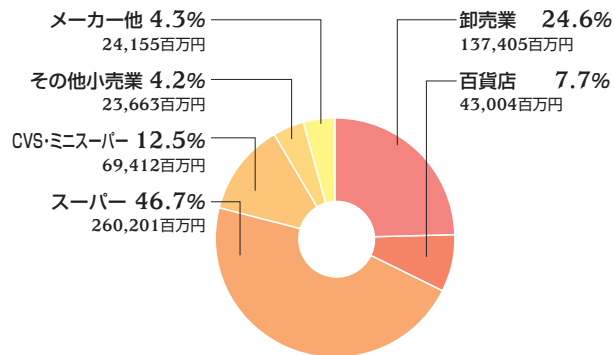
科 目	当期	前期
	平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,757	1,558
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,619	△ 1,181
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 359	△ 414
現金及び現金同等物の増減額(減少は△)	2,778	△ 38
現金及び現金同等物の期首残高	10,020	10,058
現金及び現金同等物の期末残高	12,798	10,020

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

## ■ 商品分類別売上高構成比



## ■ 業態別売上高構成比





# NON-CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

## 個別決算の概要

### ■ 貸借対照表 (単位: 百万円)

科 目	当期	前期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在
<b>●資産の部</b>		
流動資産	99,575	94,488
固定資産	51,531	47,953
資産合計	151,107	142,442
<b>●負債の部</b>		
流動負債	100,158	95,751
固定負債	2,469	2,065
負債合計	102,628	97,817
<b>●資本の部</b>		
資本金	4,923	4,923
資本剰余金	7,161	7,161
利益剰余金	32,243	30,465
その他有価証券評価差額金	4,152	2,077
自己株式	△ 3	△ 2
資本合計	48,478	44,625
負債・資本合計	151,107	142,442

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

### ■ 損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	当期	前期
	平成16年10月1日から平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から平成16年9月30日まで
売上高	541,820	518,333
売上原価	489,596	470,238
売上総利益	52,223	48,094
販売費及び一般管理費	46,982	42,882
営業利益	5,241	5,212
営業外収益	764	737
営業外費用	95	87
経常利益	5,910	5,861
特別利益	97	216
特別損失	2,207	327
税引前当期純利益	3,799	5,751
法人税、住民税及び事業税	2,350	2,565
法人税等調整額	△ 749	△ 55
当期純利益	2,198	3,241
前期繰越利益	336	279
中間配当額	156	130
当期末処分利益	2,378	3,390

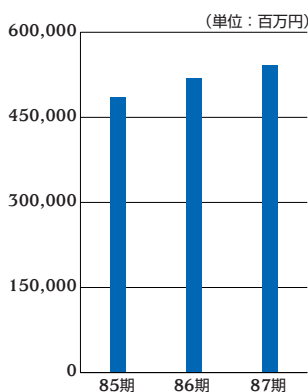
※百万円未満は切り捨てて表示しております。

### ■ 利益処分 (単位: 百万円)

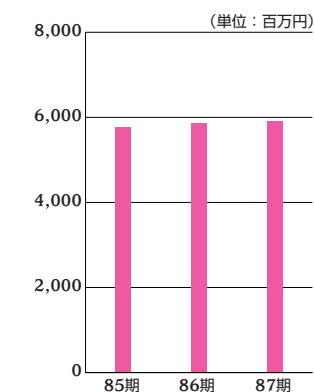
科 目	当期	前期
	平成17年12月22日現在	平成16年12月22日現在
当期末処分利益	2,378	3,390
任意積立金取崩額	13	8
合計	2,391	3,399
利益処分額	1,737	3,063
次期繰越利益	654	336

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

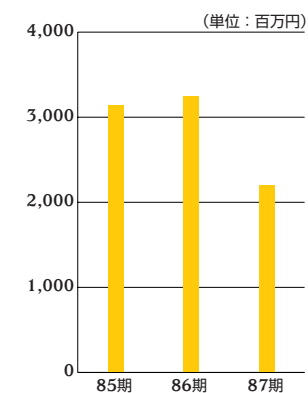
### ■ 売上高



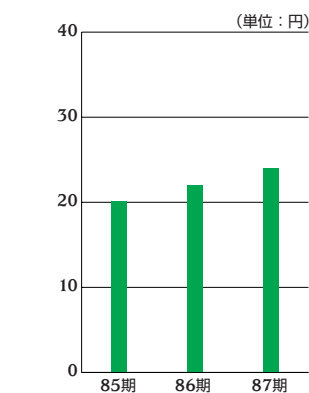
### ■ 経常利益



### ■ 当期純利益



### ■ 1株当たり配当金







## 伊藤忠食品は、おかげさまで創業120周年を迎えます。

当社の歴史は、明治19年に洋酒食料品雑貨の直輸出入商および卸問屋として創業した松下善四郎商店に端を発します。

創業以来、120年にわたり日本の流通を、そして皆様の豊かな食生活を支えてまいりました。

これまで、当社をご支援いただきました株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 会社の沿革



- **1886 明治19年2月** 武田長兵衛商店より洋酒食料部門を譲受け、洋酒食料品雑貨の直輸出入商および卸問屋業の松下善四郎商店(本社:大阪市)を創業。
- **1918 大正7年11月** 松下善四郎商店を改組して(株)松下商店(資本金1百万円、本社:大阪市)を設立。
- **1971 昭和46年3月** (株)鈴木洋酒店(本社:東京都中央区)を合併し、商号を松下鈴木(株)に変更。
- **1982 昭和57年10月** 伊藤忠商事(株)(本社:大阪市)と資本・業務提携し、営業および管理機能の強化を図る。
- **1996 平成8年10月** (株)メイカン(本社:名古屋市)と合併し、商号を伊藤忠食品(株)に変更。
- **2001 平成13年3月** 東京証券取引所市場第一部に上場。
- **2006 平成18年2月** 創業120周年。



# CORPORATE PROFILE

会社の概要 (平成17年9月30日現在)

■ 商号	伊藤忠食品株式会社
■ 創業年月日	明治19年2月11日(1886年2月11日)
■ 設立年月日	大正7年11月29日(1918年11月29日)
■ 資本金	4,923,464,500円
■ 従業員数	連結1,261名 個別911名
■ 事業内容	酒類・食品の卸売およびそれに伴う商品の保管、運送ならびに各種商品の情報提供、商品流通に関するマーチャンダイジング等を主とした事業活動を展開。
■ 本店所在地	大阪市中央区城見2-2-22 大阪本社 (平成17年11月7日に移転いたしました。) 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22 電話(06)6947-9811 東京本社 〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9 電話(03)3270-7620

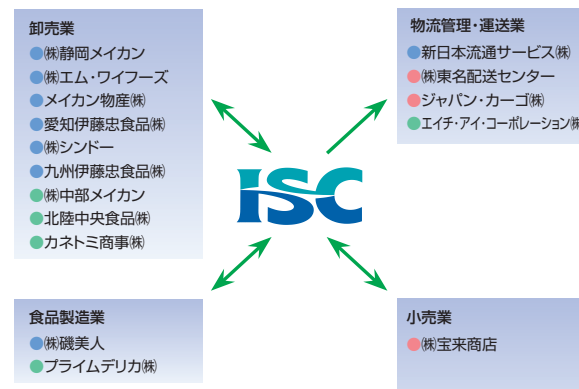
■ 役員 (平成17年12月22日(取締役会終了時)より、下記の新体制となりました。)

取締役会長	尾崎 弘	執行役員	山仲 春男
代表取締役社長	濱口 泰三	執行役員	泉屋 洋
代表取締役専務	西村 均	執行役員	森本 政朗
専務取締役 (兼)専務執行役員	大野 志郎	執行役員	長谷 茂
常務取締役 (兼)常務執行役員	岩城 彰	執行役員	藤田 博
常務取締役 (兼)常務執行役員	足立 誠	常勤監査役	浜田 等
取締役 (兼)常務執行役員	栗山 勝之	監査役(非常勤)	増岡 章三
取締役 (兼)常務執行役員	佐藤 進	監査役(非常勤)	松本 耕一
取締役(非常勤)	田中 茂治		

■ 子会社・関連会社			
	名称	主要事業内容	議決権比率(%)
● 連結子会社	株式会社静岡メイカン	食品卸売業	76.6
	株式会社エム・ワイフーズ	食品卸売業	87.5
	メイカン物産株式会社	食品卸売業	60.0
	愛知伊藤忠食品株式会社	食品卸売業	100.0
	株式会社シンドー	食品卸売業	51.0
	九州伊藤忠食品株式会社	酒類・食品卸売業	100.0
	株式会社磯美人	食品製造業	100.0
● 非連結子会社	新日本流通サービス株式会社	物流管理・運送業	100.0
	株式会社宝来商店	酒類・食品小売業	100.0
	株式会社東名配送センター	物流管理・運送業	51.0
● 関連会社	ジャパン・カーゴ株式会社	物流管理・運送業	90.0
	株式会社中部メイカン	食品卸売業	42.5
	北陸中央食品株式会社	食品卸売業	40.0
	カネトミ商事株式会社	酒類・食品卸売業	34.2
	プライムデリカ株式会社	食品製造業	20.0
	イチ・アイ・コーポレーション株式会社	物流管理・運送業	30.0

(注)1 株式会社エム・ワイフーズの議決権比率は、全て株式会社静岡メイカンによる間接所有であります。

2 ジャパン・カーゴ株式会社の議決権比率は、90.0%のうち70.0%が新日本流通サービス株式会社による間接所有であります。



# STOCK INFORMATION

株式の状況 (平成17年9月30日現在)

■ 会社が発行する株式の総数	40,000,000株
■ 発行済株式の総数	13,032,690株
■ 株主数	4,592名

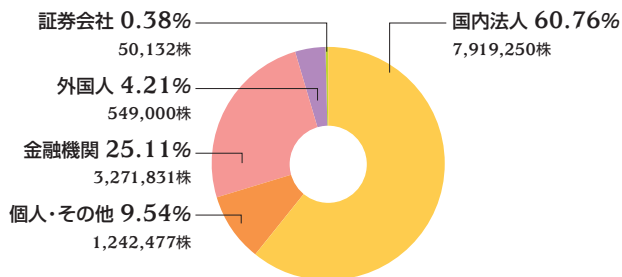
## ■ 大株主

株主名	所有株数(株)	議決権比率(%)
伊藤忠商事(株)	4,814,516	36.95
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (住友信託銀行再信託分・伊藤忠商事株退職給付信託口)	700,000	5.37
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (住友信託銀行再信託分・アサヒビール株退職給付信託口)	690,000	5.30
伊藤忠製糖(株)	688,375	5.28
味の素(株)	539,129	4.14
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	530,900	4.07
アサヒビール(株)	421,500	3.24
西野商事(株)	400,000	3.07
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	357,700	2.75
松下善四郎	302,000	2.32

(注)1 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(住友信託銀行再信託分・伊藤忠商事株退職給付信託口)の所有株式は、伊藤忠商事(株)が所有していた当社株式を住友信託銀行(株)に信託したものが、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権は伊藤忠商事(株)に留保されております。

2 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(住友信託銀行再信託分・アサヒビール株退職給付信託口)の所有株式は、アサヒビール(株)が所有していた当社株式を住友信託銀行(株)に信託したものが、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権はアサヒビール(株)に留保されております。

## ■ 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

■ 決算期	9月30日
■ 定時株主総会	12月中
■ 配当金受領株主確定日	9月30日および中間配当を実施するときは 3月31日
■ 名義書換代理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
■ 同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部
■ 同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
■ 公告掲載新聞	日本経済新聞
■ 貸借対照表および損益計算書のホームページアドレス	<a href="http://www.itochu-shokuhin.com/">http://www.itochu-shokuhin.com/</a>
■ 1単元の株式数	100株
■ 証券コード	2692

## お知らせ

### 各種手続きに必要な用紙のご請求

住所変更、名義書換請求、単元未満株式買取請求  
および配当金振込指定に必要な用紙のご請求は、  
下記にて受付しております。

名義書換代理人のフリーダイヤル

**0120-87-2031**

インターネットホームページ

[http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

# ISC 伊藤忠食品株式会社

## お問い合わせ

### 大阪本社

〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22  
電話 (06)6947-9811

### 東京本社

〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9  
電話 (03)5270-7620

### インターネットホームページURL

<http://www.itochu-shokuhin.com/>

## 株主優待のご案内

当社では、株主の皆様当社をより身近に感じていただくために、当社オリジナルギフト商品をご賞味いただける株主優待を行っております。

### 優待内容：

「ちょいす de チョイス」  
(3,000円相当)

25種類の厳選された商品の中から好きな品をお選びいただけるギフトです。

### 対象：

毎年9月30日の最終の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主様1名につき1口

### 実施時期：

12月中にオリジナルカタログの送付を予定しております。ギフト商品の発送は1月を予定しております。

### 商品の一例



耶馬溪牧場のハム詰合せ



新潟県越路町産こしひかり無洗米詰合せ



本報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。

※ギフト商品は昨年と変更になる場合があります。